

被災地から見た近代文明

～我々は、何を守っているのか？～

2012年8月25日
熊野英介

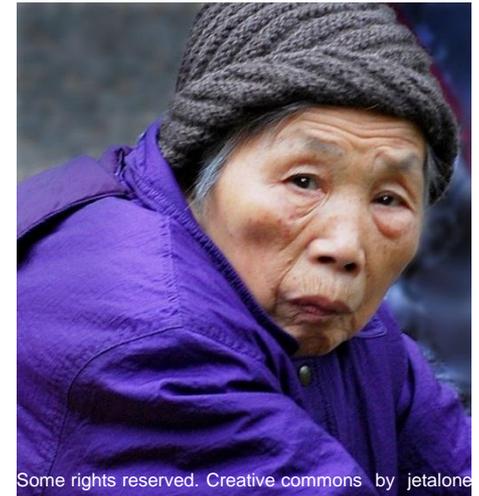
震災直後

便利な近代システムに依存した生活をしていた人々は、何の役にも立たなかった。

昔の知恵を持つ年寄りたちが、皆を助けた。

選択の余地の無いものをどう有効に使うか？

人々は、知恵を出し合った。



震災から1年

一人で自立できるようになった結果、コミュニティが崩壊し、人々はばらばらになった。

選択肢が増え、豊かな物資に囲まれることで、人々は知恵を使わなくなった。

本当の幸せとは、
豊かさとは、
一体なんでしょうか？

衣食住足りて、自らの存在価値を見失った国。

▼1998年から14年連続、自殺者が3万人を越える

▼人口10万人あたりの自殺者割合、世界8位

▼家族以外と積極的に付き合わない人の比率、
OECD諸国中、1位

▼日米中韓の高校生を対象にしたアンケートで、
「自分は価値ある人間だ」と思う割合、最下位。
(米国90%弱、韓国80%弱、日本36%)



Some rights reserved. Creative commons by fakelvis

近代国日本は、人間の尊厳を守っているのか？



個人の財産・生命(尊厳)を守った結果

未来の子供たちの尊厳を守る基盤を
劣化させてしまった。

豊かな自然資本や人間関係資本は、劣化した。

無駄を生み続けている現状。

▼エネルギー自給率、4%

▼化石燃料の輸入額、年間約20兆円

▼食糧自給率、39%

食糧輸入量、年間5,800万トン

食品廃棄量、年間1,940万トン

残飯総額、年間11兆円

▼木材自給率、26.6%



「裕福な森」を目指した結果、「豊かな森」を失った。
荒廃した森は、鏡に映る私たちの姿、かもしれない。



▼世界の消失森林面積、
約1300万ha/年
(2000～2010年平均)

▼増加森林面積と差し引きした
純減面積、約520万ha/年

▼1分間に東京ドーム2個分、
1時間に120個分の森林が
今も純減している。

本当の価値とはなにか？

貨幣的「裕福さ」から、関係性の「ゆたかさ」へ

人間関係資本の良関係

人は孤独を恐れる生き物。
弱いものを助け、人のために何かをし、
他者との良関係によって満足感を覚えたいという
利他的欲求は、未熟な状態で生を受ける、人間の本能。

自然資本の良関係

豊かな人生には、自然の恵みが必要不可欠。
水、土、大気、鉱物、動物、植物、昆虫、微生物・・・
私たちの命を支えるこれら自然資本は、
丁寧に扱えば、活用しても増幅する。

近代社会の病根として、

①不必要に人間の欲望を増幅させる利潤動機が前提の経済発展をして、その税収で政治が社会基盤や社会保障を運営している、つまり限りあるエネルギーや資源を浪費し、孤独化につながる欲望の拡大を前提に、エネルギーや資源や食料の安定供給や教育や医療の健全化を推進する矛盾。

営利主義

②近代システムが、複雑で極大化、巨大化したために、自分ではコントロールできないことを言い訳にして、積極的に被害者側の立場に立ち、世の中を評論して、情報がこれだけ溢れているのに、判断が出来る当事者にならず、傍観者的ポジションで民主主義を行う矛盾。

日和見主義

③近代社会の尊厳である個人の生命・財産を守ることを最重要にして、未来に必要な共通のコモンズを守るよりも個人、家族の尊厳を守ることを最優先する正義の価値観で持続可能社会を構築しようとする矛盾。

個人主義

近代社会は、「個人の尊厳守る自由を基本的人権」を確立させ、個人の生命・財産を守る権利を拡大した結果、社会的課題の病根を作ってしまった。

これらの矛盾を解決しなければ、豊かな人間関係や自然環境は、増幅できない。
これらの矛盾を解決するために、近代文明を超える価値観を作るには、どうすれば良いのか？
営利主義や日和見主義や個人主義をどうすれば、変えられるのか？
という課題が発生した。

量的規模の拡大での成長モデルでなく、質的規模拡大での発展モデルを築くこと。

質的規模拡大とは？

インプットの資源やエネルギーの価値を社会的貢献価値を加味したものを使用することで、その価値を利用した様々なアウトプットを作り出す。質的価値の増幅を意味する。社会的価値を加味した商品の多品種化は、市場の中で細分化になり市場規模が小さくなって事業が成立しにくくなるものでなく、互いに影響しあい新しい価値生産を繰り返すことで、市場は増幅する。

面的な市場の拡大イメージの量的規模拡大イメージから、市場の交換の回転数をあげる**密度**を増す質的規模拡大イメージで経済を考える。

監視に基づく中世的安心モデルでもなく、

(血縁、地縁という動かさない価値を重視するモデル)

契約に基づく近代的信用モデルでなく、

(モラルよりスキルを重視する無機的な定量分析可能なことを重視するモデル)

共感にもとづく信頼モデル

(職縁や文化縁という関係性と交換性で、有機的な価値増幅を重視するモデル)

で、自然と人間関係が豊かになる関係性の交換で作られる社会を目指し、そのような価値が成立する**自治経済の豊かな地域**の総和が、裕福な国家(数値化出来る)を超えることを証明することが重要である。

社会的課題を解決するためには、自然と社会の良関係が必要

大量生産に基づく生産制限、流通制限そして市場制限をしなければならない成長モデルでないということは、社会的課題の解決は、税的運用でなく市場的運用にならざるを得ない。

つまり、社会的企業が集積し地域の社会的課題と経済を担う社会を形成しなければならない。

その専門家集団の一角として、官僚経験者を採用してはどうだろうか。

現在、官僚は大きく「テクノクラート(技術官僚)」と「ビュロクラート(事務官僚)」とに分類される。特に、高度な専門知識と政策作成能力を持つテクノクラートは、国家・地方自治体・国際政治機関において政治決定に関与できるレベルの影響力を持っており、各行政機関に所属して「医療系・軍事(防衛)系・教育学系・法学系・経済学系」などに分かれている。それぞれの専門分野の知識・技術・経験を持つ彼らのような存在を、地域コミュニティの社会的課題を解決するために、社会的企業家をプロデュースして、最適解を作り出す機能を担うことになれば、その貢献度は大きい。

そうして、退職した旧官僚や旧経済人などの専門知識を持った人達や経験者が、参加する専門家組織を持つ各地域が連動し、他の地域とネットワーク化して、すばやく課題解決をしていく仕組みが広がり、次第に国境を越えて集合知化がはかられ、世界規模の自治組織連合体につながっていけば、その共感の増幅が民主主義と資本主義を融合し、第三の人権である環境権と平和権を地域市民の当事者意識で守ることが出来るようになり、質的規模拡大をはかる発展につながっていくことになる。

「政治は、雇用を創出する役割を果たすべき！」

「金融緩和で貨幣経済を暴走させたので、金融緊縮しからないのは大間違い」

「公益事業の規制緩和をし、税的活動から市場的活動の乗数効果を上げるべき」

このような組織と社会的企業が、自然資本と人間関係資本の増加に資する事業を連動しながら、増幅することで、社会的企業が社会的課題を解決する商品やサービスを購買行動で交換の増幅をすることで、選挙に社会的課題解決を求めなくても、課題解決が可能になり購買行動自体が民主主義の実行につながり、民主主義の再生になる。また、その商品、サービスの消費税の使用をテクノラート集団の自治組織に直接収入になることで、関係性の交換が増幅すればするほど、その組織の収入は増え問題解決の実現性が高まり社会貢献という共感欲求が満足することになる。

その結果、社会の社会的行動動機で関係性が増幅することで、近代の病根であるところの[欲望主義][日和見主義][個人主義]を解決し、**【共感主義】**に基づく、ネオ・モダン社会が出現する。

智慧と生命は無限である。

環境の変化と感応の変化による

外から内からの関係性の成立が我々を構成する。

何一つ安定する事象はなく、流転の世界を形成する。

私が無私であるために、

無限の生命の良関係が必要である。

我々の心の中には、人々が求めているものがある。

求めているものは、我々の子孫の善護守ること。

我々には、その求めているものを形にして、提供する情熱がある。

我々は、宣言する。

生命は価値をつくる資本であることを証明し、

持続可能社会の実現のため循環的關係性構築を第一優先と考え、

自然資本と人間関係資本の増加に資する事業のみを行い、

生命システムの尊厳を守ることを。

ご清聴、ありがとうございました。